

伊賀市におけるアーバンスポーツ施設整備基本方針

1 アーバンスポーツ^(※1)を取り巻く環境

一昨年開催された「東京2020オリンピック大会」では、スケートボードやBMX、ボルダリングが正式種目として採用され、特にスケートボード種目では多数のメダルを獲得したことも影響し愛好者が増加傾向にあります。

また、少子化の進行と子どものスポーツ離れが危惧される中でも、アーバンスポーツは従前のスポーツや体育の枠組みに縛られない新しいアクティビティとして若者や子どもを中心に広がりを見せています。

過去にもウィンタースポーツ種目であるスノーボードが、スキー競技者から忌避されていた時代もありましたが、1998年に開催された「長野冬季オリンピック」で正式種目になり、現在ではハーフパイプやクロスなども含めフリースタイル種目として確立され広く認知されています。

(※1) アーバンスポーツ

都市空間を利用し高度な技やスピード等を競う競技を総称し、代表的な競技種目としてBMX、スケートボード、パルクール、スポーツクライミング、スラックライン、3人制バスケ等が挙げられる（フットサルやダブルダッチ（縄跳び）などもこの類として分類される）。

2 アーバンスポーツの特徴 【参考：スポーツ庁アーバンスポーツツーリズム研究会】

- ①選手同士が、技を競い合うことは勿論のこと互いに喜び、失敗しても駆け寄って称え合うなど、ライバルであると同時に、仲間として教え合い学び合う中で成長していく新たなスポーツです。
- ②音楽や映像、ファッションやアートなどデジタルも活用した若者文化が融合したものとして従前のスポーツ枠を超えた領域に展開するものです。競技者もスポーツ側面だけに拘らず、遊びやカルチャーの延長線上に捉える側面があります。
- ③遊び感覚から派生したこともあり、比較的ビジネス感覚への抵抗が無く、民間を巻き込んだ事業展開に適しているとされています。
- ④子どもからプロ競技者まで、皆が同じフィールドで練習に取り組むなど風通しの良さが見られます。
- ⑤複数の種目が融合することで盛り上がっていくことが見られます（メジャーでない種目が集まって、集まり自体をメジャー化するなど）。

3 アーバンスポーツ施設の現状

東京2020オリンピック大会以降、公共スケートパーク施設は、前年比 1.4 倍に増えています。「NPO 法人日本スケートパーク協会」の令和4年資料によると、国内には公民併せ300箇所以上のスケートパーク場があるとされています。施設規模や設置場所も国際大会などに対応した高度なものから、商業施設の一角や屋外の遊休地を活用したものなど様々で、今後もスケートボードを中心とした、屋外で簡単に楽しめるスケートパークは増加すると考察されます。

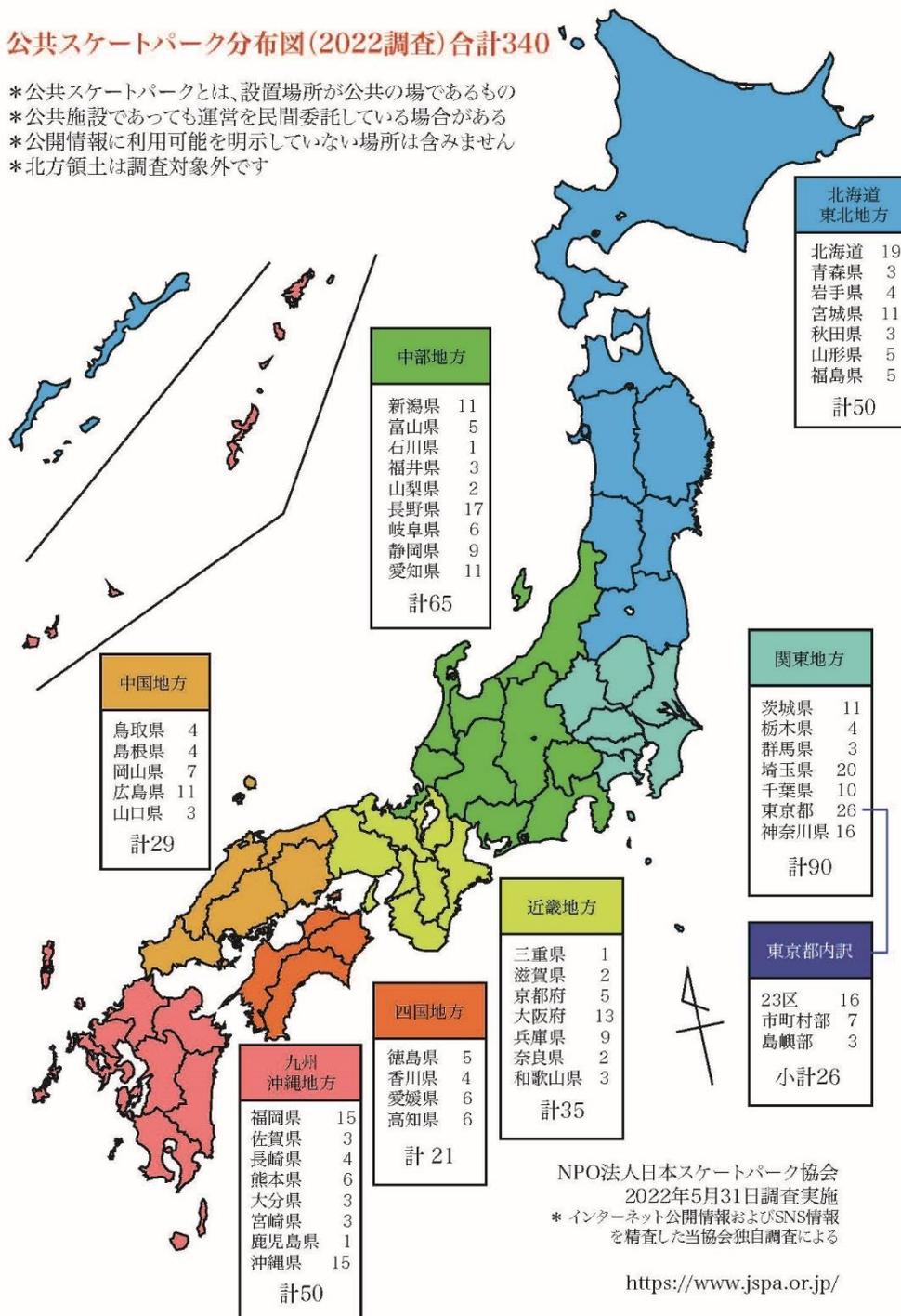
施設整備にあたっては、「滑りたい」「行ってみたい」と思わせるコンセプト、利用者のターゲットを明確にすることが求められています。

●スケートパークの整備状況

公的施設243か所（令和3年）⇒公的施設340か所（令和4年）

公共スケートパーク分布図(2022調査)合計340

- *公共スケートパークとは、設置場所が公共の場であるもの
- *公共施設であっても運営を民間委託している場合がある
- *公開情報に利用可能を明示していない場所は含みません
- *北方領土は調査対象外です



JSJA 資料書式(VER2.0)

NPO法人 日本スケートパーク協会

●種目別の内訳

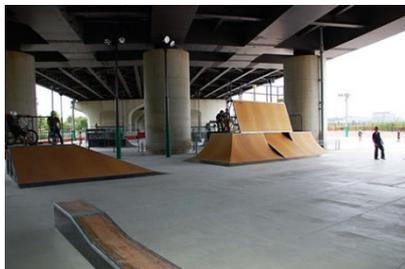
2022（令和4）年5月末現在調査における内訳

- ◆競技ごとの利用可能施設数（重複利用可能施設を含む）
スケートボード 322 施設、インラインスケート 179 施設、BMX111 施設
- ◆競技ごとの専用施設数
スケートボード 140 施設、インラインスケート 13 施設、BMX 3 施設
二種目利用 72 施設、三種目利用 112 施設
- ◆施設設置環境
屋内施設数 7 施設、屋外施設数 330 施設、屋内外併設施設数 3 施設

【スポーツ庁研究会のアンケートによる行ってみたい施設の上位5位】令和3年2月現在

| 施設名 | 所在地 | 面積や特徴 |
|-------------------------------------|-----|--|
| TOKYO SPORTS PLAY GROUND SPORTS ART | 東京都 | 屋外施設 スケートボード、BMXなど（※2022年9月閉鎖） |
| ふくい健康の森スケートパーク | 福井県 | 屋外施設 約 3,000 m ² スケートボード、BMXなど ※公園内にジムやプール・温泉施設など |
| 村上市スケートパーク | 新潟県 | 屋内施設 約 2,677 m ² スケートボード ボルダリング スラックラインなど ※海外ナショナルチームのキャンプ誘致 |
| 松阪市総合運動公園スケートパーク | 三重県 | 屋外施設 約 4,890 m ² スケートボードなど |
| UZUPARK | 徳島県 | 屋外施設 約 4,510 m ² スケートボード、バスケットボールなど ※ボートレース場に併設、観光用レンタルサイクル貸出など |

◆鉄板や木で作られたスケートパーク



新横浜スケートパーク
（神奈川県横浜市）
面積 7,000 m²
市指定管理（使用料：無料）



扇ヶ浜スケートパーク
（和歌山県田辺市）
面積 450 m²
県設置・市管理（使用料：無料）



スケートパーク川西
（愛知県小牧市）
面積 2,000 m²
市直営管理（使用料：無料）

◆雨天でも乗れる室内スケートパーク



トリシティ B3パーク&ショップ
（東京都板橋区）
面積 450 m²
民間管理（使用料：有料）



東静岡スケートパーク
（静岡県静岡市）
面積 7,000 m²
実行委員会管理（使用料：有料）



バシバーガーチャンス 川口店
（埼玉県川口市）
面積 400 m²
民間管理（使用料：有料）

◆コンクリート製で曲面を最大限活かしたコンクリートパーク



横須賀うみかぜ公園
スケートパーク
（神奈川県横須賀市）
面積 5,000 m²
市指定管理（使用料：無料）



松阪市総合運動公園
スケートパーク
（三重県松阪市）
面積 4,890 m²
市直営管理（使用料：有料）



中津川公園スケートパーク
（岐阜県中津川市）
面積 1,716 m²
市指定管理（使用料：有料）

4 愛好者・競技人口

正式数は不明ですが、ホームページ、SNS等への書き込みによると次のとおりです。

| 競技名 | 愛好者数 | 競技者数 (コフレ参加者) |
|------------|-------------|------------------|
| スケートボード | 推定 100 万人以上 | 4,000 人 |
| BMX | 推定 50 万人以上 | 250 人 |
| ボルダリング | 推定 60 万人 | 8,000 人 |
| スラックライン | 推定 5～6 万人 | 300 人 |
| ダブルダッチ | 推定 35 万人 | 1,373 人 |
| パルクール | 推定 1,000 人 | |
| ブレイクダンス | 推定 30 万人 | |
| アーバンスポーツ合計 | 約 280 万人 | |
| (参考) 野球 | 推定 730 万人 | |
| (参考) サッカー | 推定 430 万人 | |

5 アーバンスポーツの課題

◆全国的な課題

●スポーツ活動としての認知度や理解度

現在、愛好者を中心として行われている中で、一般的にスポーツとしての認知度は高くありませんが、今後新しいスポーツカテゴリーとして認知度を高めていく（競技を身近に体験したり、SNSやマスコミで取り上げてもらえる情報発信、有名な選手が出てくるなど）ことが必要です。

⇒「形」に拘らない新しいスポーツとして、話題性で目を引くこと（常に新しいこと）

●専用の実施場所などが限られている

ア)「する」⇒実施場所が少なく、指導者も少ない（情報が少ない）。

イ)「みる」⇒機会づくりの一端となる、身近で競技や練習風景などが見られない。

⇒現在は、できる場所が限られている

◆伊賀市の課題

原則禁止されている公共施設の駐車場や公園などのまちなかで競技を行っている若者が多く見られる。また、若者に興味のあるスポーツでありながら、スポーツとしての認知度が低く、思い切っただけでプレイする事ができず、若者のスポーツ離れにも繋がっている。

⇒伊賀市内には、できる場所が無い

6 アーバンスポーツへの期待

① 「する」人口の拡大

少子化や特に若者世代でのスポーツ人口の減少が進んでいるが、個人や少人数で実施できる新しいスポーツ分野としてスポーツ人口の裾野の拡大や、競技者が施設に集まることによる新しい「居場所」にできる可能性が期待されます。

② 「みる」人口の拡大

新たなスポーツ資源として大会などを地域の観光資源を含めイベント化し、誘客や経済波及へ結び付けることで、「魅力ある地域として人々に選ばれる伊賀市」として、交流人口の拡大に期待されます。

③ 「ささえる」人口の拡大

未利用施設のリニューアル整備や、イベント主催者、スポーツ活動組織、観光誘客、移住交流に関わる関係者が連携し、スポーツをささえ参加していくことが期待されます。

7 整備の基本的な考え方

伊賀市におけるアーバンスポーツに関する動きとして、個々の民間事業者による教室が立ち上がってきていること、さらにDMG森精機株式会社が所有するDMGMOR I アリーナ（旧三重県立ゆめドームうえの）に、国際大会にも対応できる本格的なボルダリング施設の整備が計画されるなど、将来を見据えた新しいスポーツ実施への機運も見られます。

このような中、伊賀市らしい個性や特色あるアーバンスポーツ施設の整備については、伊賀市スポーツ推進計画の基本目標である「する」「みる」「ささえる」の各視点から、スポーツ人口の拡大や生涯スポーツの振興、地域活性化や魅力あるまちづくりへの波及効果、さらには、関係者が連携しスポーツをささえ青少年健全育成の一翼を担う社会インフラ施設のひとつとして整備することとします。

また、施設整備については伊賀市スポーツ推進審議会へ諮問し、ニーズ調査などをおして、市民の意見を反映し、基本コンセプトや施設規模、さらに立地場所等の検討を行うこととします。

また、整備方法の選定については、整備内容、社会情勢、財政状況などを考慮すると共に、整備計画を策定していく中で、伊賀市公民連携（PPP）ガイドラインに沿った最適な事業手法を選定していきます。

8 施設整備基本方針

伊賀市におけるアーバンスポーツ施設の整備基本方針を次のとおりとします。

① 将来ニーズに対応できる施設づくり

将来を見据えた、多用途に活用できる施設とし、立地場所や目指すイメージなど明確な整備コンセプトを確立します。

② 「行ってみたい 見てみたい やってみたい」施設づくり

競技の実施や見るために会場に足を運ぶことが「ワクワクする」施設整備を行います。

③ 周囲の環境と調和した施設づくり

周辺住環境に配慮した施設とし、適切な施設運営が図られるようなルール作りを行います。

④ 維持管理しやすく効果的な施設づくり

整備手法の検討を行い、運営に係るコストの削減など効果的な施設を計画します。